

優秀賞

助け合いとは

真鶴町立真鶴中学校三年

高橋 佑 奈

助け合いとは何でしょう。私は助け合いを二つの場面、二つの視点から考えることができますと思います。

一つ目の場面は友達との助け合いです。友達との助け合いは日常的に起こると思います。例えば、教科書を忘れたときに隣の友達に見せてもらう。ペンが落ちたとき近くの友達に拾ってもらう。一日学校で過ごしていると何度も助け合いを実感します。日常の中で起きる小さな助け合い。小さな助け合いがあることで時に大きな助け合いが生まれると思います。

二つ目の場面は家族との助け合いです。私が実感する家族との助け合いは助けってもらうことが大半です。私は昨日風邪をひきました。そのときに看病してもらいましたが、それも助け合いだと思います。もちろん私達子供はお母さん、お父さんが風邪をひいたら看病します。看病したこともあります。私たちが当たり前前のように行っているその行動。それは当たり前ではなく、「助け合い」かもしれません。

三つ目の場面は見ず知らずの人。つまり他人同士の助け合いです。これは生活の中で起こりづらいと思います。誰かを助けたり、誰かに助けられる経験がなくてもその状況を見たことがある人は少なくないと思います。電車の中で席を譲る。階段でベビーカーを一緒に持つ。私は何回かこのよ

うな光景を見たことがあります。全く知らない人が全く知らない人を助ける。町中でこのような光景が見られる日本、世界を私は誇りに思います。

次に二つの視点から助け合いを考えます。一つ目の視点は助ける側の視点です。私は誰かを助けることができたと思う出来事が一つあります。私がカフェに居たときのお話です。車椅子の女性が来店して店員さんの案内で私の隣の席で食事していました。私は総合学習でユニバーサルデザインの勉強しているので、その方の店からの帰り方について考えていました。私は、食べ終えた後の食器の返却場所が車椅子から届かないことに気づきました。助けてあげたいという気持ちの反面、逆に迷惑だったらどうしようという気持ちもありました。「自分が逆の立場だったら」と思い勇気を出して行動してみました。

「これ片付けますよ。」

緊張しながら言った一言。女性は笑顔で

「ありがとうございます。助かります。」

と言って店を出ました。私はすごく嬉しかったです。誰かのために何かができたことに本当に喜びを感じました。助け合いは、助ける側も嬉しい気持ちになれることだと思います。

二つ目の視点は助けもらう側の視点です。私は一年生の秋にケガをしてしまい、松葉杖で生活していました。その時にクラスメイトが様々なことをしてくれました。移動教室の時に荷物を持ってくれる。机の移動を私の分までやってくれる。本当に助けられました。すごく嬉しかったのと同時

に、次は自分がクラスのためにできることをしようと思いました。

助け合いは、私たちの身の周りです。友達や家族。また、他人同士でも助け合って生きています。その助け合いがなかったら生活しづらい世の中になってしまふと思います。私が思うに助け合いは、みんなが幸せに生きる一つの方法だと思います。助けた方も助けられた方も幸せな気持ちになれる助け合い。私たちは、その助け合いという一つの「文化」を大切に過ごしていくべきだと思います。